

● 活動目的

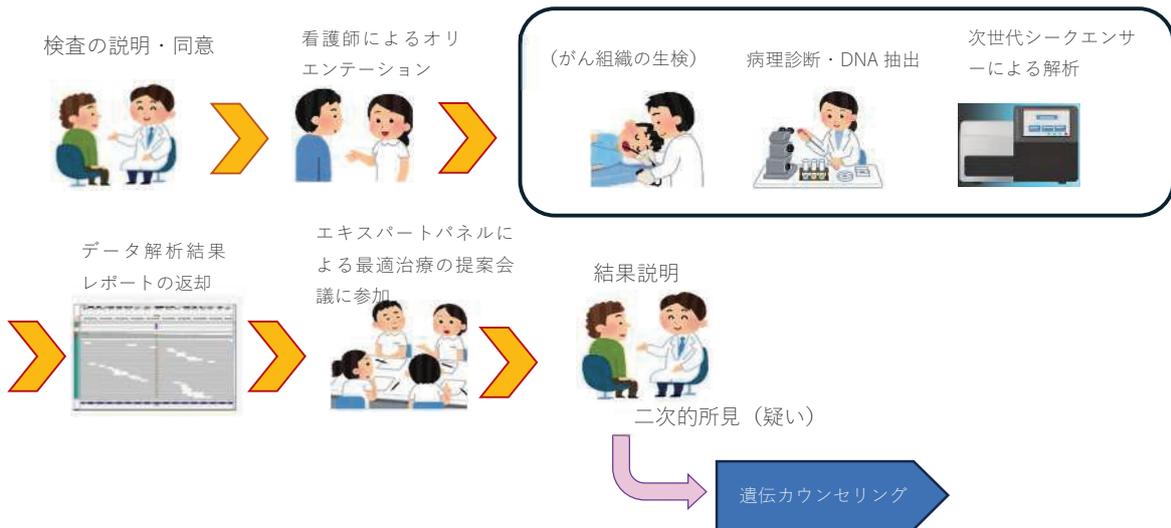
近年「がんゲノム医療」という言葉が注目されるようになりました。

従来は、疾患、病態毎に一律の治療が行われてきましたが、特定の遺伝子異常に基づいた分子標的薬にする個別化治療が広がってきています。

当院のがんゲノム医療センターでは、がん患者一人ひとりに最適化された医療(個別化医療)の実現を目指し、2020年6月よりがんゲノム医療連携病院に指定されてから5年目を迎えるにあたり、がんゲノムパネル検査を通じて治療選択の幅を広げるためにも、臨床各科との連携を図り、診療・検査・遺伝カウンセリングを円滑に提供する体制に力をいれています。今後も、患者さん一人ひとりに寄り添い、科学的な根拠に基づいたがん医療の発展に貢献することを目指し活動しています。

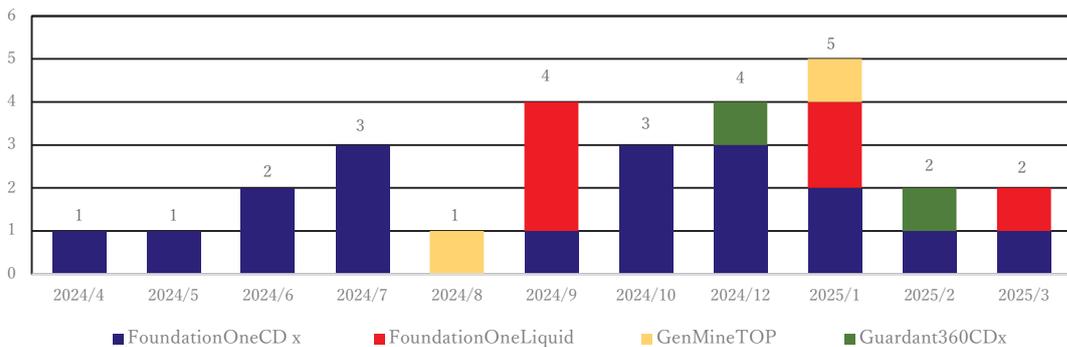
● 活動状況

がん遺伝子パネル検査の流れ



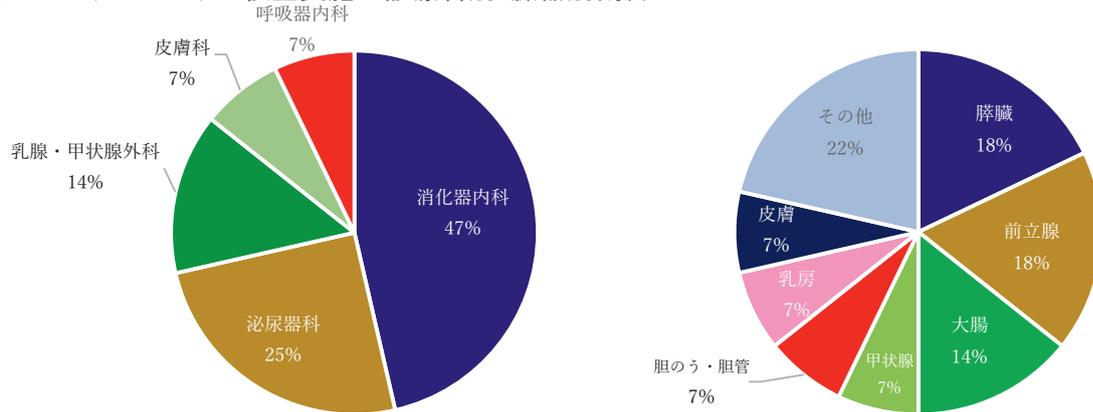
1. がんゲノムプロファイリング検査の種類別件数

<2024年4月から2025年3月末までの実績は28件です>



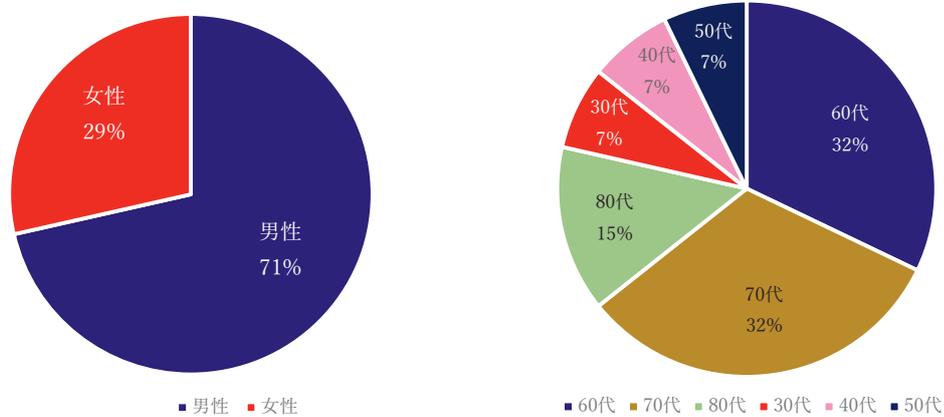
➤ 検査種別: FoundationOneCDx18件 FoundationOneLiquidCDx6件 Guardant3602件 GenMineTOP2件 NCCオンコパネル0件

2. がんゲノムパネル検査実施の診療科別・臓器別割合



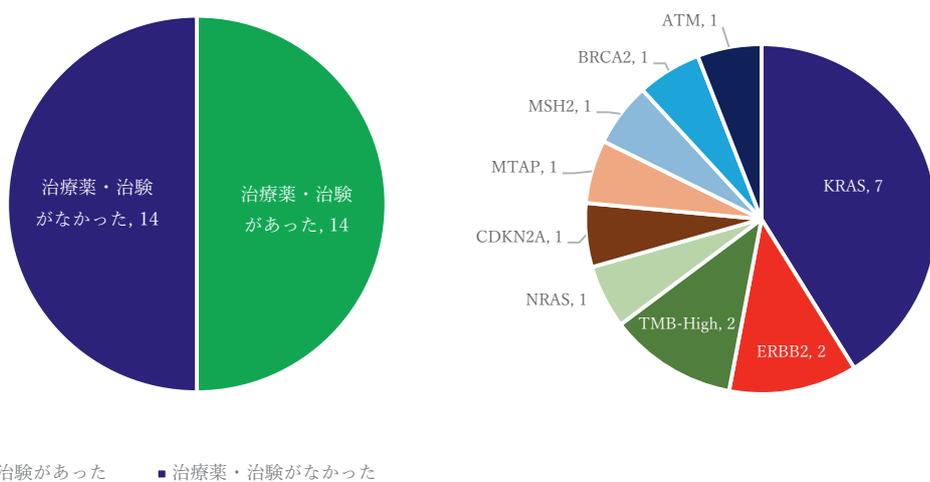
- 当院では、消化器内科と泌尿器科が全体の7割を占めており、臓器別では膀胱癌と前立腺癌が多かった。その他には(肺、胃、肝臓、膀胱、腎盂・尿管、原発不明)が含まれる。

3. がんゲノムパネル検査実施の年性別・年代別割合



- 当院では、男性が7割を占めており、年代別では70代と60代が多くを占めている。

4. エキスパートパネル後の遺伝子変異と、治療薬・治験の件数



- がんゲノムパネル検査の結果、推奨された治療薬・治験の中で、遺伝子変異による推奨された治療薬では3件みつかっており、その内訳は、BRCA2・TNM1件、TMB-High遺伝子に対する薬剤2件(検査の前までに既に使用されていた1件が含まれる)であった。
- 遺伝性のバリエーションが見つかった方の家系については、検査や早期発見を目的とする検診を行っている。